

黒岩探訪

たんぼう

17

KUROIWA
くろいわ

デキ型電気機関車二号機

先週六年生と修学旅行で鎌倉に行ってきた。乗降利用駅は、安中駅でした。信越線を利用する機会がほとんどない私には新鮮でした。

黒岩地区には、線路がないため鉄道関係には縁がないと思いがちですが、実は一つ黒岩地区に鉄道関係の文化財があります。それが「デキ型電気機関車二号機」です。平成6年に上信電鉄株式会社から富岡市に寄贈され、市立美術館の屋外展示スペースに保存設置されています。(写真1・2)美術館の住所は黒川地区ですが、設置されている番地は、上黒岩一三七七番地一です。

このデキ型電気機関車二号機は、富岡市指定重要文化財になっていました。黒岩地区のこの他の指定重要文化財は県指定のオオツノシカ関連のもの(黒岩探訪6)と、市指定の正嘉銘板碑(黒岩探訪4)と本件の合計三件です。

上信電鉄株式会社は大正10年「上野(こうづけ)鉄道株式会社」から「上信電鉄株式会社」に、そして昭和39年に現在の社名に変更しました。上野鉄道の時代は小規模の鉄道で、蒸気機関車の牽引力も小さく、明治末から大正にかけての沿線の貨物輸送の需要の増加に対応しきれなくなつたため、路線の電化と軌間(レール幅)の拡幅工事を行い、輸送力の強化が図られました。

されました。貨物輸送全盛期には、石炭や木材、繭、こんにやく等の輸送に用いられ、鏑川流域の輸送の原動力として活躍しました。デキ型電気機関車は、多くの鉄道ファンからも「上州のシーラカンス」の愛称で親しまれているそうです。地域の経済・産業の発展に多大な貢献をしてきた歴史的に価値の高い近代化遺産です。

デキ型電気機関車二号機は、大正13年に全線電化された際に導入された最初の電気機関車三両のうちの二両です。大きさは、全長九・一八メートル、幅二・六五七メートル、高さ三・八七四メートル、重量は三四・五四トありま

す。凸(とつ)型の車体が特徴的です。製造会社はドイツの「シーメンス・シュツケルト電気株式会社」と「マイン社」です。

路線の電化と軌間拡幅により、国鉄との貨車の相互乗り入れが可能となり、走行所要時間も短縮され、輸送力は大幅に増強



写真1 デキ型電気機関車2号機(南から)



写真2 デキ型電気機関車2号機(南西から)

*【機関車】客車・貨車を牽引、あるいは推進するための動力車。動力源が蒸気なら蒸気機関車、電気なら電気機関車。
* 参考文献 『富岡市の文化財』富岡市教育委員会 平成21年発行